

令和 7 年第 1 回 高千穂町議会定例会

一般質問通告内容集約書

高千穂町議会事務局

【 6 名 12 件 】

質問日	件数	質問者	件名	頁
3 月 17 日 (月) 13:30～	3 件	工藤 博志 議員	1. 農福連携促進事業の推進について 2. 敬老祝い金について 3. 小学校の統廃合について	1
	3 件	藤田 利廣 議員	1. 高齢者について 2. 夜神楽について 3. 公文書の管理・チェックについて	3
3 月 18 日 (火) 10:00～	1 件	田中 義了 議員	1. 高千穂中学校移転、建設等について	5
	3 件	佐藤 さつき 議員	1. チャレンジショップについて 2. 世界農業遺産である棚田の歴史保存について 3. 災害対策について	6
	1 件	本願 和茂 議員	1. 町長の政治姿勢について	7
	1 件	板倉 哲男 議員	1. ごみの削減について	8

順	質問者	件 名	質問相手
1	工藤博志 議員	1. 農福連携促進事業の推進について	町長
質 問 の 要 旨			
農林水産省では平成 29 年度から農業と福祉を連携した交付金支援事業がスタートしています。 障がい者が農業を通じて社会参加することで、人手不足や働き方改革など農業の抱える課題解決や障がい者の生きがい、更に就労の機会づくりなどにより活躍の場の拡大など効果は大きいとして事業化されています。 以下について伺います。 1 農福連携とは何かという周知活動を住民にはされているか。 2 農福連携による地域住民との交流とコミュニケーション・作業能力の向上や雇用の場確保・作業の効率化・規模拡大・所得の向上など双方にメリットは大きいと思うが推進の考えは。 3 障がい者の受け入れにより、農業生産や施設の関連整備が可能であると聞いているが、本町に事例はあるか。 4 農家と福祉事業所の連携が最も重要であるが、行政側での農林振興課・福祉保険課との農福連携の協議の経緯はあるか。 5 2 と重複するかもしれないが、障がい者の社会参加と農家の社会貢献からの観点ではどう考えるか。 6 中山間地では、人手不足・なり手不足・生産年齢の人口減少の緩和と解消が喫緊の課題だと思う。農福連携事業については一例ですが、今、本町の 11,000 人前後の人達で何が出来るかを住民としっかり膝を交えて協議し、誰一人取り残さない生きがいのある町づくり政策を講じて欲しいと思うが、町長の考えを伺う。			
順	質問者	件 名	質問相手
1	工藤博志 議員	2. 敬老祝い金について	町長
質 問 の 要 旨			
毎年、敬老の日には各地区でお年寄りを敬い、長寿をお祝いして敬老祝賀会が催されています。過去数年はコロナ禍で自粛されていましたが、昨年より復活開催される地区も増えてきました。本町では町長自ら出席、あるいは代理で地元職員の出席もあります。中でも 77 歳・88 歳・99 歳・100 歳の長寿祝い金の支給は好評で大変喜ばれています。 77 歳・88 歳・99 歳はそれぞれ 3,000 円、100 歳の方には 10,000 円となっています。			
〈次頁へ続く〉			

以下について伺います。			
1 最近の物価高騰をはじめ生活必需品の値上がりは、年金生活者には大変厳しい状況だろうと思うが、お年寄りのみなさんが、敬老祝い金の受け取りを励みに生きがいと楽しみを持って5年・10年と少しでも長生き出来るような大幅な引き上げは出来ないか、伺う。			
順	質問者	件 名	質問相手
1	工藤博志 議員	3. 小学校の統廃合について	教育長
質 問 の 要 旨			
令和7年度より中学校は一本化されます。児童・生徒の減少・少子化・過疎化など、 いろいろな実状のある中、やむを得ない決断であろうと考えます。 小学校は現在5校ありますが、将来に向けて統廃合の可能性について伺います。 1 児童数の適正基準で判断する場合の数値はどれくらいか。 2 教育規模の適正基準を重視する場合、教員数はどれくらいか。 3 通学距離の基準はあるか。 4 保護者の意向はどれくらい重視されるか。 5 1校毎に検討する考えか。5校の同時一本化の考えはあるか。 6 小規模校のデメリットを最小化し存続する考えはあるか。 7 小規模校のメリットを最大化し存続する考えはあるか。 8 各地域の文化伝統の継承が危ぶまれるが、子供達にどう伝えるか。 9 将来の日本を支えてくれる子供達がどのような教育を受けたか、受けさせたか で社会は大きく変わると思うが、教育行政の長としての責務はどのように考えて いるか。			

順	質問者	件 名	質問相手
2	藤田利廣 議員	1. 高齢者について	町長
質 問 の 要 旨			
今、高齢者が年々増加しているが、高齢者は社会福祉協議会、さんさんクラブに任せきりではないでしょうか。高齢者大学の受講者も少なく、福祉保険課、社会福祉協議会でも、どうしたら良いのかと思案中との事です。人口減少のうに高齢者はますます増加します。対策を早急に考えていかなければなりません。人口の減少、高齢者の増加が見込まれているが、町の第 9 期介護保険事業計画・高齢者福祉計画を令和 6 年 3 月に発信されている中でも、さんさんクラブなどの活動もコロナのせいで、C ランクとなっています。11 月のグラウンドゴルフ大会があるのみで高齢者の健康づくり、維持管理をしていく方法がなく、全ての事を社会福祉協議会、げんき荘に任せている様だが、町にはスポーツ推進委員会があります。2027 年には国民スポーツ大会があり、高千穂では剣道競技が行われます。デモンストレーションとしてモルックが実施されますが、町民はどのようにして知るのでしょうか。またどのように普及啓発をしていくのでしょうか。スポーツ推進委員の活用、また活動を通して高齢者の健康維持推進をし、2027 年にデモンストレーションであるモルックなどを推進し、町民に普及啓発をされてはいかがでしょうか。 「いきいき、支え合い、安心して暮らせるまち高千穂」を掲げている町長に伺います。 1 町民への 2027 年にあるモルックの普及啓発をどの様に考えているのか。 2 これからの高齢者の健康維持管理、環境整備をどの様に考えているのか。 3 さんさんクラブなどの大会を、もっと増やしていく考えはないか。 4 高齢者が健康で楽しく活動できる場所、町づくりはできないか。			
順	質問者	件 名	質問相手
2	藤田利廣 議員	2. 夜神楽について	町長
質 問 の 要 旨			
毎年恒例の夜神楽もコロナ以来、年々減少して夜神楽ができる地区が少なくなっています。問題なく今までの状態で出来る所、地区によって大きな問題を抱えている所もありますが、その中でも大きな問題は、夜神楽を実施する所（神楽宿）民家が無い、公民館などで出来る所もありますが、裏方仕事が高齢化してきている事と、資金不足などがあり、夜神楽はこれから先、様変わりしていくのではないかと思います。既に少しずつ様変わりしています。 ユネスコ無形文化遺産、文化・神楽子供伝承保存会、などいろいろ支援はしてありますが、神楽を実施する所には、確たる支援がありません。神楽を実施する地区に一定額の支援をしてはと感じますが、いかがでしょうか。高千穂町の夜神楽を守るためにも必要だと思います。 そこで、町長に伺います。 1 夜神楽を実施する地区に支援は出来ないか。 2 これから先の夜神楽をどの様に考えているのか。 3 夜神楽をする場所の確保をどの様に考えているのか。			

順	質問者	件 名	質問相手
2	藤田利廣 議員	3. 公文書の管理・チェックについて	町長
質 問 の 要 旨			
住民基本台帳人口一覧表と第 9 期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の令和 6 年度版を頂きましたが、数字に違いがあり、同じ年度に発信されていますが、どちらの資料が正しいのか不明瞭であります。どのようなチェックをされているのでしょうか。間違いは誰でもしますが、再々確認し、報連相がなされているのでしょうか。民間企業では必ず報連相、ミーティングをして作業にかかります。 そこで町長に伺います。 1 チェックは誰が、いつ、どの段階でしているのか。 2 間違いを見つけたら正しい資料を送付されているのか。			

順	質問者	件 名	質問相手
3	田中義了 議員	1. 高千穂中学校移転、建築等について	町長
質 問 の 要 旨			
1 高千穂中学校移転、建築等について (1) 高千穂中学校移転先として、高千穂高校の施設の活用を前提に宮崎県教育委員会に陳情したと聞くが、その内容を知りたい。 ①日時 ②宮崎県教育委員会の対応者 ③陳情の理由 ④対応内容 (2) その後、陳情したことを宮崎県教育委員会に断りましたとのことだが、その詳細を知りたい。 ①日時 ②宮崎県教育委員会の対応者 ③断りの理由 ④対応内容 (3) 五ヶ瀬中高一貫校、串間中学校と福島高校との連携一貫校、そして併設型の一貫校があると思うが、併設型の調査をしたのか。 (4) 昨年2月に宮崎県教育委員会から併設型の話があったようだが、即座に断ったと聞く。いつ、誰が、誰に、どのような理由で断ったのか。 2 高千穂中学校建設予定地の地中を九州中央道のトンネルが建設予定されており、昨年の町長答弁で高千穂中学校建設に支障がないとのことだったが、現在もそのように考えているのか。 3 高千穂中学校建設の事業費積算見積は32億円規模と知るに、その財源の手当てはと思うのは当然のことだが、ふるさと納税の過去5年間の実績額と今年度見込額、令和7年度以降の増収対策はどのように考えているのか。			

順	質問者	件 名	質問相手
4	佐藤さつき 議員	1. チャレンジショップについて	町長
質 問 の 要 旨			
近年、本町ではいろいろな事情により既存の飲食店が減少しています。 新規開業を計画中の事業者もいらっしゃいますが、それでも観光客の増加に対して、店舗数が不足していると考えます。また、町内で空き家が増加していることも事実であり、これらの課題解決として、チャレンジショップに取り組んではどうか、次の点から伺います。 1 内装工事の助成や一定期間家賃の補助を行い、希望者が本町で起業しやすいように仕組みを整え募集してはどうか。 2 女性や若い人、転職を考えている方など資金に不安がある方々がチャレンジできるように、起業セミナーを定期的に関いてはどうか。			
順	質問者	件 名	質問相手
4	佐藤さつき 議員	2. 世界農業遺産である棚田の歴史保存について	町長
質 問 の 要 旨			
本町を含む高千穂郷・椎葉山地域は世界農業遺産に認定され、本町の観光資源として重要な役割を果たしています。中でも棚田と山腹用水路からなる農業は歴史も古く、同じ町内でも地域ごとに特色があります。後世に向けて、いつ、誰がどの棚田を訪れても歴史がわかるように整備してはいかがでしょうか。町長に伺います。 1 中学生の提言にありました二次元コード作成の意見を取り入れて、二次元コードの看板を各地域の棚田に設置してはどうか。			
順	質問者	件 名	質問相手
4	佐藤さつき 議員	3. 災害対策について	町長
質 問 の 要 旨			
近年、南海トラフ関連情報として大地震の予測を身近に聞くようになりました。昨年も県内で震度5を示す地震がありました。高千穂中学校移転が、答申を受け取られた当初の予定通り進まなければ、中学生は危険地域でいつまでも過ごすことになります。災害は突然起こります。私たち大人ができることは、一日も早く子供たちを安全な場所での学習環境ができるようにしてあげることではないでしょうか。 1 移転は最短でどれくらいかかるのでしょうか。 2 当初、町民の避難所としての機能もある計画でしたが、変更はないのでしょうか。			

順	質問者	件 名	質問相手
5	本願和茂 議員	1. 町長の政治姿勢について	町長
質 問 の 要 旨			
甲斐宗之町政がスタートし6年が経過しました。新型コロナウイルス感染症対応と、激甚化・頻発化する災害対応に苦慮し、多くの時間と労力を費やした6年間であったと捉えています。 しかし昨年は、管理者である西臼杵広域行政事務組合消防本部でのパワハラ発覚問題、高千穂中学校移転計画に対し要望書が出された問題、職員の確認ミスによる課税漏れ問題等で何度も新聞やマスメディアに掲載され、町民・郡民に大きな不安と不満を与えたものと感じています。 内閣支持率の様に、町政に対する支持率が公表されるのであれば、現在の町政に対する支持率は6年前の町長就任から著しく低下しているものと見受けられます。 町長就任から6年が経過した現在の、町政の進捗状況をどの様に捉えられているのか、また、公約として掲げたマニフェスト進捗状況はどうなっているのか伺います。			
1 新年度施政方針についても伺います。 2 現時点の消防本部パワハラ問題の処分対応についても、予算関連があるため詳細を伺います。 3 町民・郡民への具体的な信頼回復についての詳細説明を伺います。 4 高千穂中学校移転計画に対し要望書を出された団体へのこれまでの対応と、今後の対応について伺います。			

順	質問者	件 名	質問相手
6	板倉哲男 議員	1. ごみの削減について	町長 ・ 教育長
質 問 の 要 旨			
我々が生活するにあたり、必ずごみを出します。そして、そのごみを処理するためにはコストが発生します。 西臼杵広域行政事務組合に確認したところ、令和 5 年度の高千穂町の一般廃棄物の排出量は 3,330 トンで、令和 5 年度 4 月 1 日時点の本町の人口 10,884 人で計算すると、住民 1 人あたり年間およそ 306 kg、1 人 1 日あたり約 838.4g です。その処理費として高千穂町が負担した金額は 1 億 4264 万円です。 我々が生活する上で、ごみの排出は避けられませんが、その量は私たちの取り組みによって大きく減らすことができます。仮にごみを減らすことができれば、処理にかかる費用は軽減につながります。 例えば、京都市のごみの量は、ピーク時の平成 12 年に 82 万トンでしたが、行政・住民のごみ削減の取り組みにより、令和 5 年度には 37.2 万トンに減らすことができ、ごみ処理費用についても、ピーク時の平成 14 年度 367 億円だったのが、令和 4 年度には 239 億円に減少できているそうです。ちなみに、京都市のごみ排出量は、令和 4 年度で 1 人 1 日あたり 757.3g です。 近年の傾向を見ると、本町におけるごみの排出量は、総量、一人当たり排出量ともに、減少傾向にあります。ごみ処理費については、物価高の影響などにより、増加傾向にあります。 ごみ処理費の上昇を抑えるために、これまで以上に、ごみの削減に取り組むべきだと考えます。 また、多くのごみが焼却処分されていることから、ごみの削減に取り組むことは、二酸化炭素の排出削減にもつながります。 さらに、ごみの削減は自然との共生を評価されたユネスコエコパークのブランド価値をさらに高めることにもつながります。自然との共生の取り組みを推進し、持続可能な社会の実現に向けて取り組むことは、地域の魅力をさらに引き立てることができる。 ごみの削減のため、具体的には、次のような取り組みが有効だと考えます。 (1) ごみ処理の実情やごみ削減についての情報発信、啓発 まずは、私たち住民が日々出すごみの量がどれだけで、そのごみを処理するためにコストがどれだけかかっているのかについてや、どのような取り組みをすれば、ごみを削減できるのかなどについて、住民と情報を共有する必要があります。町広報やテレビ高千穂などを活用し、これらの情報発信をしてはいかがでしょうか。			
〈次頁へ続く〉			

さらには、小中学校や公民館、各種団体へ出向いての出前授業などの実施も有効だと思います。

(2) 具体的な削減目標の設定

情報発信をするにあたり、具体的な削減目標も併せて発信する必要があると思います。

また、その目標は、町全体の目標ではなく、一人一人の目標値として設定するとよいと思います。

例えば、「高千穂町のごみ排出量を 3000 トンに」という表現ではなく、「高千穂町民 1 人 1 日あたり 800g に」というような表現であれば、自分事としてとらえやすくなります。

さらに、住民がこれならできそうだ、と思えることが重要です。

例えば、「1 人 1 日あたり、ミニトマト 2 個分（約 30g）のごみを減らしましょう」というような表現であれば、目標がわかりやすく、多くの住民に、これならできると感じていただけたと思います。

(3) 生ごみの水切り

西臼杵広域行政事務組合によると、一般廃棄物の約 80%は燃やすごみとのことです。

一般的に、燃やすごみの 40%程は生ごみであり、生ごみの約 80%は水分です。

このことから、計算上は、一般廃棄物の 25%程が水ということになります。ごみの削減に取り組むには、生ごみの水分をいかに削減するかが重要です。もっとも簡単でだれもが取り組める方法が、生ごみの水切りを徹底することです。そのため、各家庭において水切りを徹底していただくよう発信するとともに、水切りをする際に便利な水切り器を無償で配付している自治体があります。

本町においても、同様の取り組みをしてはどうかと思います。

(4) コンポスト容器や生ごみ処理機の導入支援

生ごみの削減には、水切りに加え、コンポスト容器や生ごみ処理機の活用が効果的です。そのため、各家庭におけるコンポスト容器や生ごみ処理機の導入に対して助成金を支給する自治体があります。

現時点で、県内では宮崎市や延岡市、五ヶ瀬町、椎葉村など 9 市町村に、助成金制度があるようです。

こうした助成金制度は、自治体の新たな負担となりますが、ごみ処理費の増加抑制、さらには削減につながることを期待できるため、中長期的には財政負担軽減になるといえます。

本町においても、助成金制度を整備してはどうかと思います。

(5) 農業生産者との連携

農水省が令和 3 年 5 月に公表した「みどりの食料システム戦略」では、化学肥料や農薬の使用量削減推進や、有機農業などの環境保全型農業を推進することで、二酸化炭素の排出を抑制し、2050 年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにすることを目指すことが明記されています。

本町においても、学校給食に化学肥料や農薬の使用量を削減した特別栽培米を取り入れるなどの取り組みを始めたところです。

〈次頁に続く〉

有機農業も含めた環境保全型農業を推進するにあたり、土づくりが重要になります。

そこで、各家庭で乾燥させた生ごみや、使用しきれないコンポストなどを、農業生産者が活用できる仕組みを整備してはどうでしょうか。

例えば、久留米市では、乾燥生ごみを農業生産者がたい肥として活用する事業に取り組んでいます。乾燥生ごみを出した市民は、代わりに野菜を受け取れるとのことで、「今までは燃やせるごみで廃棄していたが、野菜と交換できるのでうれしい」と、好評のようです。

本町においても、同様の取り組みができないでしょうか。

(6) リユースの推進

ごみを削減する上で、リユース（そのままの状態で再利用すること）も効果的です。

家具や家電、衣類など、まだ利用できるものの、所有者にとっては必要なくなったために捨てられることはよくあります。

しかし、ある人にとって必要なくなったものでも、別の人にとって再利用できる可能性は大いにあります。

ごみ削減を推進するにあたり、リユースの推進にも取り組むべきだと思います。

リユースを推進する方法はいくつかあり、環境省の資料「市町村におけるリユース取組事例」によると、自治体がリユース事業者を紹介する「リユース事業者紹介方式」や、イベントを実施する「イベント方式」、常設の交換所を設ける「常設交換方式」などがあることがわかります。

本町においても、できることから、リユース推進に取り組んではいかがでしょうか。

(7) 学校における取り組み

ごみ削減を推進するにあたり、学校における環境教育も大切だと考えます。

子どもたちが環境問題に対して正しい知識を持ち、具体的な行動に移すことができれば、ごみ削減において、大きな成果を上げることができると思います。

給食から出る生ごみでコンポストたい肥をつくり校内の花壇などに活用したり、あるいは、町内への啓発も兼ねて、子どもたちがごみ削減を訴えるポスターを制作したり、防災無線でごみ削減を呼びかけるなども良いと思います。

ごみ削減を推進するにあたり、学校においても、今以上の環境教育や情報発信などを期待したいと思いますが、いかがでしょうか。

以上をふまえ、以下について、町長に伺います。

①ごみ処理の実情やごみ削減についての情報発信、啓発に取り組む必要があると思いますが、いかがでしょうか。

②ごみ削減を図るにあたり、具体的な削減目標の設定が必要と思いますが、いかがでしょうか。

③生ごみの水切りの徹底を発信するとともに、水切り器などの配付をしてはいかがでしょうか。

〈次頁へ続く〉

④コンポスト容器や生ごみ処理機の導入に対する助成金制度を設けてはいかがでしょうか。 ⑤家庭から出る乾燥生ごみやコンポストなどを町内の農業生産者が活用できる仕組みづくりをしてはいかがでしょうか。 ⑥リユース推進に取り組んではいかがでしょうか。 次に、教育長に伺います。 ⑦学校においても、今以上の環境教育や情報発信などを期待したいと思いますが、いかがでしょうか。	
---	--